

ようこそ



(上)われら円光寺門徒衆!!
大遠忌の一年の始まりです。



(左)本堂いっばいに85人の
お同行がお正信偈さまの
お勤めをしました。

(1月20日)

第 21 号
浄土真宗本願寺派
円光寺
〒870-0108
大分市三佐3-15-18
TEL097-527-6916
FAX097-527-6949

声をかけあってまいりましょう

いよいよ四月からご本山(京都西本願寺)で親鸞聖人七五〇回大遠忌法要がお勤まりになります。

五〇年に一度の大法要に先がけ、全国各地でお待ち受けの法要行事が行われていますが、円光寺では一月二十日(木)にご法座を開き、来年の一月十六日(親鸞聖人祥月御命日)の大遠忌に向けて「円光寺しんらんさま七五〇プログラム」をご門徒衆にお話し、山門横の道沿いフェンスに横断幕を掲げて、大遠忌の一年をスタートしました。

また円光寺が所属する大海組では三月二日(水)から六日(日)までの間、いちごグランシアタを会場に、お待ち受け法要と記念行事を開催します。一人でも多くの人にお念仏のご縁に遇っていただきたい、親鸞さまのこと、浄土真宗のこと、本願寺のことを知ってほしいと、お寺を飛び出し大分市の町中で繰り広げる一大イベントです。

ご門徒皆さんに声かけをお願いします。「私からあなたへ」、まず私から大遠忌のご縁に遇わせていただきます。そしてあなたに、声かけをしていきます。すぐに「ハイ」と返事が返って来なくても、何度も声をかけていきましょう。

今この私が仏さまのご縁をいただけたということとは、声かけをしてくださった人がいたということとです。声かけに背中を向けていたこともあったと思います。それでも声をかけてくださった。

南無阿弥陀仏は阿弥陀さまの声かけ、および声です。それこそずっとずっと以前から、この私を自当てるに「必ずあなたを救いますよ」あなたのいのちそのまま引き受けたとおよび通します。

「いっしょにいこうえ」と声をかけあってまいりましょう。私たちは往生浄土の念仏同行です。

あんのん館で初めてのお通夜

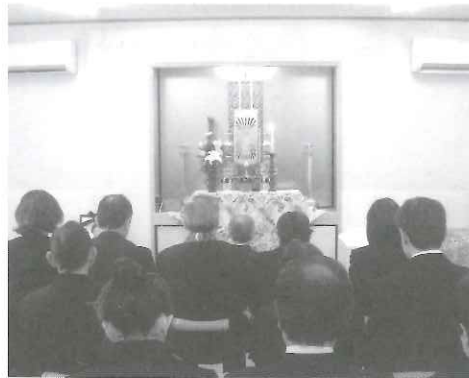
あんのん館で初めてお通夜を本堂でお葬式をしました。

円光寺では以前に、門徒スタッフにより自宅でお通夜、お寺でお葬式をしていましたが、今後は葬儀社を入れてお寺でお通夜とお葬式ができるシステムをつくりました。

葬儀社で行うお通夜のような儀式としてはなく、自宅でお通夜のように、最後の夜を、身近な方々と一緒にお夕事のお勤めをし、ゆっくり過ごさせていただくご縁です。

あんのん館に座布団を敷きつめて、約八十人がお参りでした。今は葬儀社での通夜葬儀が当たり前になっていますが、何かとサービスマンで、浄土真宗のみ教えにふさわしくない事例も見受けられます。浄土真宗門徒として最後のお勤め、阿弥陀如来さまにお礼を申し上げるお葬儀のご縁です。

これからも随時「円光寺でのお葬式」説明会を開きますので、皆さんご参加ご理解ください。ご遺族の方から「お寺でお葬式が出来て本当によかったです」と言われました。心あたたまる



お葬式をお勤めさせていただきたいと思っております。

出棺動行のようす(2月4日、あんのん館) この後お棺を本堂に移しお葬式をしました

本山大遠忌法要

ウオーキング参拝

円光寺開基(江戸時代初期)由来の豊後竹田から、遠くお念仏の先人をたずねて、京都のご本山に歩いて(大分から大阪は船)お参りします。

- ① 3月31日(木) 竹田↓野津原
- ② 4月2日(土) 野津原↓三佐
- ③ 4月6日(水) 夕々8日(金) 大分(船中)↓大阪↓枚方・伏見↓京都へ
- ④ 4月9日(土) 本山おあさじ

法要初日参拝

「ごいんげさんとご一緒しませんか」

大海組お持ち受け法要・吉本新喜劇公演のポスター 何とも異色の組み合わせ、ちょっと気になりませんか!?

世々生々

昨年末から「伊達直人」を名のる複数の人から全国の子童福祉施設にランドセルが贈られている。名付けてタイガーマスク運動というそうだ◆四十

数年前、「タイガーマスク」というプロレス漫画があった。孤児院で育った主人公がタイガーマスクというリング名のプロレスラーになって、ファイトマネーを孤児院に送り続けるという内容である◆善意の輪が広がっている。自分の事で精いっぱい、隣の人が何をしようと関係ない、隣に倒れている人がいても声をかけることさえしない、そんな世知辛い現代の世相にあつて、久しぶりに何ともあたたかい話題だと、報道は少々過熱気味である◆私たちは小さい頃から「善いことをしなさい。悪いことはするな」と教えられ育てられてきました。誰しも悪いことはしたくありません。でもこの善いことをするということが難しい。善いことをしても喜ばれないこともあります◆人と人が織りなす私たちの社会にあつて、私にできる精いっぱいのこととをさせていたたくところに、お互いに感謝の生活が開かれる。「布施の心で、させていたたく、ありがとう」(二月掲示伝道)



人生のリセット

パソコンが作動しなくなりまして。色々と操作をしてみました。色がエラーの表示ばかりで、電話でサポートセンターに問い合わせました。何通りかアドバイスされましたが、回復せずパソコン自体をリセットする以外に方法はないという診断でした。

これは困った。というのは、リセットするとパソコンに入っているこれまでのデータが全て消滅してしまうのです。

結局は「しばらく様子を見ます」と電話を切つて、数時間後祈るような気持ちで電源を入れたら、何と回復していたのです。重苦しく沈んだ心持ちから一変、もう天に昇るばかりの喜びです。さつきまで周囲にもちよつとしたことで当り散らしていた私が、「よかった、よかった」と感謝感激の面持ちです。

私たちの人生について、リセットできるものならやり直したいと思つたことがありますか。でもできないんですよね。できないどころか、やり直したいことも全て積み重ねてきた上でこの私、私が今ここに生きてい



走るくぼうもりさん> 大掃除の後で (11月16日)

るといふことです。

仏さまのみ教えに聞かせていただくと、やり直しができない人生も見直すことができます、教えてくださいます。

私たちは「私が、私が」というものの見方でずつと生きてきました。そしてこれからも生きていくでしょう。今度のパソコンの故障のことも、そこにはちゃんと原因があるんだけれども「何で何で何で、どうしてどうしてどうして」とパソコンにも、周りにも腹が立ちます。自分のことはどこかに置いて、他を非難するといったものの見方です。一方、自分が順調に行っているときは周りのことはあまり考えない。周りのおかげとか、そういうことに心が至らない私がいまいます。やっぱり「私が、私が」がそうまいります。そういうものの見方のなかに、

ご案内

◆春彼岸会

3月18日(金) 11:00~14:00
同 19:30~21:00
3月19日(土) 13:30~15:00

◆花まつりの会

4月 3日(日) 9:00~12:00
(白象パレード、新1年生を祝う会)

◆本山大遠忌法要団体参拝

(京都ご旧跡コース)

4月12日(火)~14日(木)

◆宗祖降誕会

5月22日(日) 10:00~15:00
(初参式、バザー、もちまき)

“月に一度は お寺参りしましょう”

お朝事にお参りしましょう
^ 毎朝6時30分~7時V

私たちは苦しみ悩んでいるというの、阿弥陀さまの見立てです。ところがその見立てにハイと肯くことがなかなか難しい。逆に「私はそんなことはない」とまた「私が、私が」が出てきます。仏法聴聞といえます。仏の教えを聞いてくれよといわれます。そのお言葉が南無阿弥陀仏なのです。南無阿弥陀仏とお念仏申してくれよといわれます。ナモアミダブツ、聞こえましたね。阿弥陀さまのおよび声です。「われにまかせよ、必ず救う」どんなことがあってもあなたのいのちそのまんま引き受けたと、阿弥陀さまのおはたらきが私の心に届き、私の口に出てくださる。



<こいんげさん>を囲んで 鍋の会 (2月13日)

南無阿弥陀仏とお念仏申させていただける。お念仏申すなかに、やり直しができない人生だけでも見直すことができますよと、私たちの人生を大きく広く開いてくださる、お浄土からの南無阿弥陀仏のたのしいおはたらきであります。(1月22日)

仏前成人式をしました。



本堂の阿弥陀さまの前で記念撮影
(12月31日)

十二月三十一日(金)の大晦日、除夜会のご縁に仏前成人式を行いました。平成2年4月1日から平成3年3月31日生まれの方を対象に、今回は子ども会の水曜学校やサマースクールに通ってくれた五人が集まりました。仏参の後、記念に腕輪念珠と『數異抄』をさしあげました。みんなで除夜の鐘つきをして本堂で祝賀会をし、懐かしい思い出話に花を咲かせました。

私たち念仏レディです。

円光寺の大きな行事に仏教婦人会(橋本玲子会長)の存在は欠かせません。定例のものだけではなく、急ぎようお願いすることもある。役員さんは大変なご苦労だと思いますが、いつもにこやかにお手伝いをしてくださり、本当に有難いことです。

三月五日の大海組お持ち受け法要では、各寺で手作り物品を販売するという事で、円光寺からは腕カバーとホウ酸団子を出品することになり、早速有志に呼びかけて作業をしました。念仏レディのたのもしさを思っています。これからもできるとこ



家からミシンを持ち寄ってみんなで楽しく大仕事です(1月31日、あんのん館)

ろで、和気あいあいとご加勢いただきたいと思います。

御正忌報恩講

(11月26日〜28日)



ほれほれと仏法聴聞
松本英祥講師 (熊本光尊寺住職)

“ごどもほうおんこう”



<しんいんさん>のお導師で「らいはいのうた」をお勤めました(11月26日)

今年も手作りの人形劇を上演しました



スタッフ、子どもたちと一緒に
舞台の前で、ハイポーズ!!

あとかぎ

一月から新聞連載が始まった五木寛之さんの『親鸞』がおもしろい。小説の醍醐味を思う。さすが作家である。史実を織り交ぜながらの巧みな文章に、親鸞さまの生活ぶりを想いめぐらす。厳しい越後の自然環境、当時の民衆のすがたを通して、泥臭いまでに生きる人間親鸞さまの苦悩を見る思いがする。そしてお念仏の救いは現実生活の真つただ中にあると聞かせていただく。「次はどうなるのかなあ」明日の朝刊がワクワク楽しみである。